

(様式1)

令和 2 年 8 月 3 日

宮津市議会議長 徳 本 良 孝 様

会 派 名 市民新生クラブ
代表者名 北 仲 篤 ⑩

政務活動費 調査研究(視察)報告書

- 1 視察年月日 令和 2 年 7 月 31日 (金) ～ 7月 31日 (金)
- 2 視察先・項目 有害鳥獣処理施設の運営について
- 3 参加者氏名 北仲 篤
- 4 経 費 2,012円 (2,012円/1人あたり)
- 5 添付資料 視察研修行程表・資料 (別添のとおり)

政務活動費 調査研究(視察)報告書

視察内容：京都府京丹波町「京丹波自然工房」の取り組みについて

1 視察目的・内容

「京丹波自然工房」では、鳥獣被害対策・農林業振興・地域活性化等を目的としてハンターの育成に取り組まれている。垣内代表の「若者に職業としてハンターを選択してもらうためには、商品価値の高い食肉を安定的に提供できる状況を創出すべきである」との考えに基づいた事業運営がなされている。商品価値の高い食肉を生産するためには、捕獲後短時間のうちに適切な処理と加工を行なう必要がある。その目的を達成するための環境整備として、ハンターが必要最小限の労力で有害鳥獣として捕獲した個体の処理を行なうことのできる施設を効果的に運用する必要がある。しかし、全国の自治体を対象としたアンケートによると、有害鳥獣として捕獲された個体の約7割が現地で埋設処理されている。ハンターの負担軽減と自然環境の整備という二つの観点から考えても有害鳥獣の処理施設の効果的な運用を行なうべきである。また、本市においても、この施設と同様の生物処理を行なっているが、必ずしも当初の見込み通りの処理状況になっているとは言えないのが実態である。処理速度の問題、臭気の問題等具体的な課題が生まれている。そこで、本市施設の効果的な運用に資することを目的として、本市と類似の処理施設を適切に運用されている「京丹波自然工房」の視察研修を行なうものである。

「京丹波自然工房」の処理施設では捕獲した有害鳥獣を微生物により分解する処理を行なっている。タンパク質が微生物によって分解される過程でアンモニア等の窒素化合物等が発生することにより強い臭気が発生する。近隣に住宅地がある処理施設ではこの対策が必要となる。

ここに搬入された個体は60℃に設定された処理層で20時間かけて微生物により分解される。処理層内の空気は吸引され脱臭装置に運ばれる。脱臭装置内はウオーターシャワーにより臭気のもとになる空気中の粒子等を水中に沈殿させ、その水の浄化処理を行なっている。

また、処理施設のランニングコストの主なものは、電気代5万円/月、処理層に投入する微生物代が約90万円/年(約30万円×3回)、防犯カメラ3台による安全管理費36万円/年、等がある。

2 考察・検証・成果等

【北仲 篤】

「安心・安全で美味しいジビエを消費者に提供することにより、若者がハンターという職業を選択することを旨とする」という明確な理念を掲げて事業展開されていることに感銘を受けた。高品質のジビエを安定的に生産することを最優先し、ハンターがその点に力を注ぐことができるようにするためには、有害鳥獣処理施設の運営もハンターの知見を活かすことのできる民間企業が中心となって行なうことが望ましいと考える。今回視察させていただいた京丹波町の処理施設では、本市の施設の課題となっている臭気の問題等をはじめ具体的な解決策を実践されていることが明確になった。改めて教を請い改善の取り組みをしていく必要があると考える。もちろん、農林畜産業等の産業振興施策や地域活性化の観点から公益的な事業として行政が取り組むべき内容も含まれているのできめ細やかなコミュニケーションを取りながら取り組んでいくことを重視すべきと考える。